

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

(1) 附属中学

学校番号	中学 7	学校名	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校						課程				学校長名			太田垣 淳一		
教頭名	遠藤 弘太郎												事務長名			渡邊 信尚		
教職員数	教諭	1 1	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	6	技術職員等	5	計	2 7	
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年				合計		合 計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女			男	女					
				2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0			6 0	6 0	3				

(2) 高校全日制

学校番号	5 5	学校名	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校					課程	全日制		学校長名		太田垣 淳一				
教頭名	大西 武彦				寺田 義弘						事務長名		渡邊 信尚				
教職員数	教諭	4 3	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	6	技術職員等	5	計	6 7
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年				合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女			男	女					
	普通科		1 3 8	1 0 3	1 4 5	9 4	1 3 5	9 9			4 1 8	2 9 6	1 8				

2 目指す学校像

10年先を透徹した生徒主体の探究学習

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	【生徒】 21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する 多様な学びを促進する学習環境を提供する

	生徒が主体性を発揮できる自由を創出する 【学校・教職員】 名実一致した合理的で生産的な教育機関となる 学校の向かう方向性を一にする カリキュラム・マネジメントの機能を構築する 組織の生産性を高める（働き方改革） ゆるぎなき教科教育の質を達成する エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う 【地域社会】 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる 竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○高等学校全日制課程 本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移してきた人材 ○附属中学校 本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、中学校において学びを深めるために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移すことのできる人材

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
全体	・ 足許の少子化と交通アクセスの悪さで生徒募集は先細りのリスク（R5 志望倍率：附中 3.6 倍、高校 1.2 倍） ・ R3 より民間校長が学校改革を推進。旧来の「文部両道」文化は内外に根強いものの、ICT や探究における卓越した実践が併せて認知されつつある（塾説コメント	・ 公立中の模倣から中高一貫教育への脱皮（附中）† ・ アドバンスコースと単位制課程の完成・結果検証（～R7） ・ 卓越したデジタル教育のさらなる先鋭化・特色化† ・ 探究（地域課題解決）における地域連携の強化と内製化† ・ 多国籍人材をてこにしたグローバル教育の近代化と加速

	等) ・ 経営の導入、学年王国から教科主体の専門組織への転換とミドル層の育成が徐々に軌道に乗りつつある ・ 中高が随所で分断し一貫校としての意識は発展途上 ・ ガバナンスは脆弱 (R4 は複数の課題が発生) ・ R5 人事で優秀教員、外国籍など多彩な人材を迎える ・ R5 より内進生と高入生上位層を混合した「アドバンスコース」を開設。中高一貫教育の開発試行の場とする	・ 経営／カリキュラム・マネジメントにもとづく運営の維持 ・ 服務規律等のガバナンスの強化 ・ マーケティングの強化によるターゲット層の生徒獲得 ・ 多様で有能な人材の適材適所の配置・育成 ・ 次の3年間に向けた中期計画（成長戦略）の策定
学習指導	・ 附中生は学力分散が大きく 25% (R4 中 3 学力推移) は偏差値 40 台を低迷 ・ 高入生も多くが主体的な学習習慣を身に付けていない (R4 高 1-11 月: 平日 2h 未満 66.2%、休日 3h 未満 53.0%) ・ 模試偏差値は高 1 から高 3 に向け減少を辿る (R4 卒業生: 高 1-7 月: 56.6 → 高 3-10 月: 52.6) ・ 教員はなべて真面目だが教科専門職としての意識には濃淡ある。思考力や表現力を育む深い学びへの質的転換は道半ば。R5 から考査・模試と土曜講座を見直し ・ ICT の活用度は県内有数だが多くは教材提示に留まる ・ 新規開発の地域課題解決探究が堅調。SS (理数探究) クラスは希望者が現象	・ 教科主任を中心とした PLC (専門的で学び合う集団) の構築 ・ 上位校のベンチマーキングを通じたギャップ分析と対策 ・ データにもとづく学習指導 (BI システムの活用) ・ 中高横断で生徒主体の学びと個に応じた指導 (習熟度別授業) を提供する体制づくり (附中〜A コース) ・ 生徒主体の指導と研鑽文化 (授業研究等) の義務からの移入 ・ 授業評価などによる指導力の見える化 ・ SSH 第 2 期報告と第 3 期出願検討をきっかけとした SS (アドバンス理系) 指導の見直し
進路指導 キャリア教育	・ 「早慶筑」に安定した合格者数を維持するが、最難関校合格者を計画的に輩出する指導力に課題 (R4 は 2 名) ・ LHR 等を通じ進路指導を行う (R4 実績 20 回/年) が本質的なキャリア教育は限定的 ・ 生徒に自己効力感の低さが見られ、十分なキャリア展望を持たず安易な進路選択をする傾向がある	・ 探究／特別講座、開かれた学校づくりを通じたキャリア教育の強化; 海外進学や起業など多様な進路への対応 ・ 進路指導部と高 3 学年団の一体化によるノウハウの直接展開 ・ 出口戦術を明文化し進学指導経験の浅い教員に支援 ・ 思考力型問題への教科横断での対応 ・ 総合型入試の活用

生徒指導	・ 学校運営への生徒関与は活発でない（例年生徒会役員は学年持ち上がりの信任投票で選出） ・ いじめの積極的な認知を推進（R4 1 件） ・ 心の問題や家庭の問題に起因する生徒の問題行動等が継続的に発生（SC 利用のべ 78 回/年） ・ 現場による報告の遅れや情報の抱え込みが起きがち	・ 教員へのコーチング研修 ・ 探究等を通じた生徒（会）のエンパワメント ・ 外部連携と保護者に対する啓発 ・ 発達障害児への支援スキルの獲得 ・ いじめ防止・危機管理等の手順の順守徹底
特別活動	・ コロナ禍の影響で全校行事が制約を受ける ・ 負担・効果に鑑み「文化芸術鑑賞」を再設計 ・ 学校行事においても中高の間に垣根が見られる	・ 教育効果に鑑みた行事の「選択と集中」 ・ 附属中生の包摂
働き方改革	・ 療休／休職教員の補充が遅れ、負担の偏りが発生（月 80 時間超過のべ 2 名） ・ R5 人事では単位制加配の前倒しと新採加配を実現 ・ 専門職としての生産的・合理的な働き方に不慣れ ・ 部活動に強い思い入れを持つ教員・保護者が有数いる	・ さらなるデジタル化と断捨離の実施 ・ 業績評価の正準化による生産性向上 ・ 部活動支援員の積極活用；部活動ガイドラインの啓発と順守

5 中期的目標と本年度の重点目標

中期的目標（太字）と重点目標（本年度のものに○）	評価指標	担当
【生徒】21 世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る		
ICT を活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する	「ICT を活用した授業実施状況調査」全県 5 位以内	教務、学習
多様な学びを促進する学習環境を提供する	ワークショップ型ハイブリッド教室の実装	情メ
生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	自己効力感アンケートで好意的回答 80%	特活、生指
○ グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる	英検合格者数（KPI）	グロ、英語科
○ キャリア教育の再生を通じ、生徒の学ぶ動機を強化する	保護者参加型のキャリアイベント 2 件以上	進路
地域特性を活かし差別化された学びを提供する	IT 資格（KPI）	探究、情報科
【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる		
学校の向かう方向性を一にする	—	—

カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	新 R プログラムの完成	学習
組織の生産性を高める（働き方改革）	残業 80 時間を超える教職員 0	全教職員
○ ゆるぎなき教科教育の質を達成する	模試の平均点偏差値：過去平均×○ 授業評価：授業満足度平均 3.3 以上（KPI）	学習
カリキュラム・ポリシーにもとづく 6 年間一貫した学びを提供する	6 年間一貫した経営目標／シラバスの作成	教科
○ エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	進学実績（KPI 参照）	進路
アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	%ターゲット層獲得	A O
安心・安全の学校環境を維持する	生徒の事故 0、 教員の不祥事 0、事務上のミス 0	保健・生指、 事務、 全教職員
【地域社会】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる		
地域人材を活用した、開かれた教育を推進する	（未定）	探究
竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	フォロワー数	マケ
○ 地域に支えられた持続可能な部活動に転換する	部活動ガイドラインからの逸脱 0	特活